





いたい
だいじょうぶ

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○いたい ○でんわ ○平仮名の読み・書き（拗音 シャシヨシヨ ジャ ジョジョ）		○いたい だいじょうぶ？ ○ほけんしつ あたま め くち はな みみ まゆ げ おなか て あし ○でんわ ○じゅう じゅうどう じゅうえん あくしゅ じてんしゃ くじやく
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 （その子どもの母国語でも挨拶をする。）	
2 日付と天気 の尋ね方の復習	(1) 「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようびですか？」 「きょうのてんきはなんですか？」と聞く。 (2) 子どもが答えられないようならば、カレンダーを指差し ながら、「きょうは、○がつ、○にち、○ようびです。」外 の天気を見ながら「きょうのてんきは、(例)あめ です。」 と言い、子どもにも言わせる。 (3) 黒板に「○がつ○にち○ようび てんき (例)あめ」と 書き、子どもと一緒に言う。 (4) もう一度、「きょうは、なんがつ なんにち？ なんよ うびですか？」「きょうのてんきはなんですか？」と聞き、 子どもに「きょうは、○がつ○にち、○ようびです。きよ うのてんきは、(例)あめです。」と答えさせる。	
3 誕生日の尋ね 方の復習	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シートを使う。 子どもに、友達やいろいろな先生の誕生日を尋ね、掲示し てある月別カレンダーや友達の自己紹介カードに書き込ん でいくことで復習をさせる。 ※友達や先生に尋ねて、新たに分かった誕生日についてのみ 扱う。	「たんじょうびは、なん がつなんにちですか？」 シート（子ども用） ※巻末資料参照 月別カレンダー ※巻末資料参照 友達の自己紹介カード ※巻末資料参照
4 家庭学習の答 え合わせ	家庭学習「長音の平仮名なぞり書きシート」の答え合わせ をする。シートの絵と文字を指差し、一つずつ指書きさせて、 正しく書けていれば○をつける。 「きゅうり、にんぎょう、べんきょう、ぎゅうにく」	『ひろこさんのたのし いにほんご1 ひらが な・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 【P61、62】

<p>5 ディクテーション</p>	<p>「きゅうり」と言って、子どもが「きゅうり」と言って、正しく書ければ○をつける。同様に「にんぎょう、べんきょう、ぎゅうにく」まで、ディクテーション（聞き取り）をする。子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。</p>	<p>ディクテーション用テスト用紙</p>
<p>6 単語テスト</p>	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご』 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちよう 【P62】のシートを使い行う。「きゅうり、にんぎょう、べんきょう、ぎゅうにく」</p>	
<p>7 「みぎ／ひだり／まんなか」「うえ／した」の復習</p> 	<p>(1) 「みぎ／ひだり」を復習させる。 (2) 「うえ／した」を復習させる。 視力検査表を使って「みぎ／ひだり／うえ／した」を使う練習をさせる。 ア 指導者が、Cの記号を指差し、指で方向を指しながら「みぎ」と言う。 イ 次に、指導者が指した記号について、「みぎ」「ひだり」「うえ」「した」等答えさせる。 ※平仮名を使えば、平仮名を読む練習にもなる。</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』 (凡人社)【P60、61】 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』 (凡人社)【P62、63】 視力検査表</p>
<p>8 「いたい」の表現（体の部位の名称）</p> 	<p>『日本語学級Ⅰ』の【P64】を使う。 (1) 【P64】の1のイラストを使って、「いたい」の意味を教える。 (2) 【P64】の2の□□□に「いたい」という言葉を子どもに書き入れさせた後、読ませる。 (3) 【P65】の3のイラストを使って、「あたま。いたい。あたまがいたい。」というように、「～がいたい。」という言い方を教える。指導者はイラストのようなジェスチャーを交えて言う。 ア 指導者が「あたま。いたい。あたまがいたい。」と言った後、子どもに言わせる。 イ 同様に「おなか。いたい。おなか。いたい。」 ウ 「は。いたい。はがいたい。」 エ 「め。いたい。めがいたい。」 オ 「くび。いたい。くびがいたい。」 カ 「のど。いたい。のどがいたい。」 ※『ともだちになろう！』【P17】のイラストを使って、体の部位の名称等を覚えるようにする。「ほけんしつ、あたま、め、くち、はな、みみ、まゆげ、おなか、て、あし」</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』 (凡人社)【P64~67】 『ともだちになろう！』 (静岡市教育委員会) 「4 ほけんしつ (保健室)」【P17、18】 『にほんごをまなぼう』 (文部省) 「6 からだのこと」 【P24、25】 のイラストを使うこともできる。</p>

<p>(4) 手遊び歌「あたま・かた・ひざ・ボン」(♪ロンドン橋落ちた)を、一緒に振り付け付きで歌い、覚えさせる。</p> <p>♪あたま・かた・ひざ・ボン、ひざボン、ひざボン、あたま・かた・ひざ・ボン、め・みみ・はな・くち～(または「手は～〇〇」で体のいろいろなところを触る)</p> <p>(5) 【P66】の④のイラストを指差しながら、「どこ?どこ?どこが痛い?」と指導者が尋ね、「～がいたい。」と①～⑦まで答えさせた後、平仮名で書かせる。</p> <p>ア 「どこ?どこ?どこが痛い?」と指導者が聞き、「あたまが痛い。」と子どもは答える。</p> <p>イ 「めがいたい。」③「のどがいたい。」④「おなかがいたい。」⑤「くびがいたい。」⑥「はがいたい。」⑦「おしりがいたい。」</p> <p>(6) 【P67】の⑤の上のイラストを使って、「気持ちが悪い。」という言い方を教える。吐き気がするようなジェスチャーを交えながら、指導者が「きもち が わるい。」と言う。子どもにも言わせる。</p> <p>(7) 子どもが「きもち が わるい。」と言うことができたら、「□□□ □ □□。」に平仮名で「きもち が わるい。」と書き込ませる。</p> <p>(8) 【P67】の⑤の下のイラストを使って、「熱がある。」という言い方を教える。額に手を当て、熱があるようなジェスチャーを交えながら、指導者が「ねつがある。」と言う。子どもにも言わせる。</p> <p>(9) 子どもが「ねつがある。」と言うことができたら、「□□ □ □□。」に平仮名でと書き込ませる。</p> <p>(10) 実際に体温計を使って指導者が熱を測る。体温計を見せ、熱がない場合、「ねつがない。」と言い、元気があるポーズをして、「ない。」と書き込ませる。</p> <p>(11) 「あたまがいたい」「きもちがわるい」「ねつがある」等の表現を覚えたら、『ともだちになろう!』【P18】を使い、役割演技をする。子どもが「おなかがいたい。」と言ったら、心配そうな態度で「だいじょうぶ?」と声を掛ける。役割を交代して行う。</p> <p>(12) 同様に『こどもにはんご宝島』【P32】のイラスト④を使い、「だいじょうぶ?」と言えるようにする。</p>	<p>♪ロンドン橋落ちた</p> <p>※インターネット上で、手遊び歌が、音楽、振り付け、歌詞付きで紹介されているので参考になる。</p> <p>体温計</p>
--	--

9 電話の使い方

10~20分
単活動可

※欠席等の連絡は保護者が行うことであるが、生活の中で電話を使う場面を想定し、電話のかけ方を教える。

- (1) 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P68】の①のイラストや指導者の携帯電話を見せ、「これは、でんわです。」と言い、子どもにも言わせる。
 - (2) 同じページの電話の記号と電話番号を指差して、「これは、でんわばんごうです。」と言い、子どもにも言わせる。
 - (3) どちらとも教えた後、子どもに、①の□のマスの中に「でんわ」、②の□のマスの中に「でんわばんごう」と書き込ませる。
 - (4) 学校の電話番号が載っている学校の封筒等を指差し、「学校の、電話番号。」と言って学校の電話番号を子どもに書かせる。
 - (5) 例：「学校の電話番号は、221の3143です。」と言って読み聞かせる。ハイフン（—）を指差し、「の」と言って注意を促す。
 - (6) 調べておいたその子どもの電話番号を読み聞かせ、自分の家の電話番号を書かせる。
例：「マルコスのいえのでんわばんごうは、851—8319です。」と言って読み聞かせる。もう一度、ハイフン（—）を指差し、「の」と言って注意を促す。
- ※教室内に内線電話などがあれば、実際に電話を使って練習してもよい。
- ア 指導者が子ども役となり、携帯電話等から事務室に電話を掛ける。
- イ 次に、子どもに電話を掛ける練習をさせる。

『こども にほんご宝島』（アスク出版）【P30～33】「第7話 こんなとき、何て言う？」

『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』（丸人社）【P68～71】

子どもの家の電話番号を家庭環境調査票等で調べておく。

10 平仮名の読み・書き（しやしゅしよじやじゅじよ）

- (1) しとやが書かれたカードを見せながら、指導者が初めはゆっくり「しーやーしーや」と言い、徐々にスピードを上げ、やのカードを裏返してしとやのカードに変え、しやの組合わせにして「しや」と短く切って言ってみせる。子どもも指導者と同じように初めはゆっくり言い、徐々にスピードを上げ、最後にしやをしにしたら「しや」と言うようになる。
- (2) 「しや」と「しや」の発音の違いを理解したら、縦書

し、やの裏にや、の裏にしゅ、の裏にしよと書いたカード
「50音表」を掲示する。

平仮名をぞり書きしー

10~20分
単活動可

きと横書きの「しゃ」というカードを見せて、書きの練習を行う。

(3) 同様に、「しゅ しよ じゃ じゅ じょ」の練習をさせる。

(4) 指導者の発音を聞いて、その文字のカードを並べるゲームを行う。

※子どもの机の上に、**し** **や** **ゆ** **よ**のカードを用意しておき、指導者が「しゃ」と言ったら、子どもは**し**と**や**を選び、並べる。同様に、**し** **や** **ゆ** **よ**も行う。

(5) 『ひろこさんのためのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P63~65】に出てくる単語を練習させる。
「じゅう、あくしゅ、じてんしゃ、じゅうえん、おいしゃさん、くじやく、じゅうどう」を練習させる。

ト

『ひろこさんのためのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P63~65】

11 挨拶

T: 終わりました。さようなら。
C: 終わりました。さようなら。

家庭学習

備考・連絡

拗音しやしゅしよ じやじゅじよ の平仮名なぞり書きシート
『ひろこさんのためのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社) 【P63~65】
「じゅう、あくしゅ、じてんしゃ、じゅうえん、おいしゃさん、くじやく、じゅうどう」

指導プラン 16日目



たべる のむ
おおきい ちいさい

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○たべる／のむ ○おおきい／ちいさい ○平仮名の読み・書き（拗音 ちゃちゅちよ ぢゃ ぢゅ ぢょ ちゅちよ）		○たべる／のむ ○おおきい／ちいさい ○ちゃ ちゅ ちよ ぢゃ ぢゅ ぢょ ○ちよう おちや かぼちや ちゅうしゃ
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 (その子どもの母国語でも挨拶をする。)	
2 日付と天気の尋ね方の復習	(1) 「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようびですか？」 「きょうのてんきはなんですか？」と聞く。 (2) 子どもが答えられないようならば、カレンダーを指差しながら、「きょうは、○がつ、○にち、○ようびです。」外の天気を見ながら「きょうのてんきは、(例)くもりです。」と言い、子どもにも言わせる。 (3) 黒板に「○がつ○にち○ようび。てんき、(例)くもり」と書き、子どもと一緒に言う。 (4) もう一度、最後に「きょうは、なんがつ、なんにち？なんようびですか？」「きょうのてんきはなんですか？」と聞き、子どもに「きょうは、○がつ○にち、○ようびです。きょうのてんきは、(例)くもりです。」と答えさせる。	
3 誕生日の尋ね方の復習	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シートを使う。 子どもに、友達やいろいろな先生の誕生日を尋ね、掲示してある月別カレンダーや友達の自己紹介カードに書き込んでいくことで復習をさせる。 ※友達や先生に尋ねて、新たに分かった誕生日についてのみ教う。	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シート（子ども用）
4 家庭学習の答え合わせ	「拗音の平仮名なぞり書きシート」（『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P63～65】）の答え合わせをする。シートの絵と文字を指差し、一つずつ言わせてから、指書きさせて、正しく書けていれば○をつける。	『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P63～65】

	「じゅう、あくしゅ、じてんしゃ、じゅうえん、おいしゃさん、くじやく、じゅうどう」	
5 ディクテーション	「じゅう」と言って、子どもが「じゅう」と言って、正しく書ければ○。同様に「あくしゅ、じてんしゃ、じゅうえん、おいしゃさん、くじやく、じゅうどう」まで、ディクテーション（聞き取り）をする。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。	ディクテーション用 テスト用紙
6 単語テスト	『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P65】を使って、絵を見て、その名前を平仮名で書かせる。 「じゅう、あくしゅ、じてんしゃ、じゅうえん、おいしゃさん、くじやく、じゅうどう」	『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P65】
7 「いたい」「でんわ」の表現の復習	(1) 「いたい」の復習をさせる。 「頭が痛い」「気持ちが悪い」「熱がある」等の表現を覚えたら、『ともだちになろう！』【P18】を使い、役割演技をする。子どもが「おなかが悪い。」と言ったら、指導者が心配そうな態度で「だいじょうぶ？」と声を掛ける。役割を交代して行う。 (2) 「でんわ」の復習をさせる。 ハイフン（－）を「の」と読むことを押さえながら、学校の電話番号と子どもの自宅の電話番号を確認する。 ※小学校1年生では、電話を使用する機会が少ないので、簡単に復習させる。	『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』（凡人社）【P64～67】 『ともだちになろう！』（静岡県教育委員会）【P18】 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』（凡人社）【P68～71】
8 「たべる／のむ」の表現	『日本語学級1』【P78～81】を使って、「たべる／たべない」「のむ／のまない」の使い方を学習させる。 実際の場面を使って練習させる。 (例1) 鉛筆を見せて、「これはえんぴつです。たべる？たべない？」と聞き、子どもが「たべない。」と答える。 (例2) コップに入った水を見せて、「これはみずです。のむ？のまない？」と聞く。子どもが「のむ。」と答えれば、「どうぞ。」と言って飲ませる。子どもが「のまない。」と答えた場合は、	『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』（凡人社）【P78～81】







	<p>指導者が「のむ。」と言って飲んでもよい。</p> <p>※給食のときに、具体物を使って「たべる？たべない？」「のむ？のまない？」と聞き、実際の場面で使えるようにする。</p> <p>(例3)</p> <p>在籍学級の給食の場面で、御飯などを配膳した後、おかわりを「たべる？たべない？」について聞く。</p>	
<p>9 「おおきい／ちいさい」の表現</p> <p>10~20分 単活動可</p>	<p>(1) 『日本語学級Ⅰ』【P82, 83】を使って、「おおきい／ちいさい」の使い方を学習させる。</p> <p>(2) 実際の場面で使えるようにさせる。</p> <p>(例1)</p> <p>指導者の大きい靴と子どもの小さい靴を用意して比較する。大きい靴を指差して「これは、おおきい？ちいさい？」と聞き、子どもに「おおきい。」と答えさせる。子どもの小さい靴を指差して「これは、おおきい？ちいさい？」と聞き、子どもに「ちいさい。」と答えさせる。(その他、大人用の大きな物と、子ども用の小さな物を比較する。)</p> <p>(例2)</p> <p>指導者用の大きい机と子ども用の小さい机を比較させる。</p> <p>(例3)</p> <p>大きなサイズのお菓子の箱と一般に市販されているお菓子の箱を比較させる。</p> <p>(例4)</p> <p>大型絵本と普通サイズの絵本を比較させる。</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P82S3】『にほんごをまなぼう』(文部省)【P15】の「おおきい ちいさい」のイラストを使うこともできる。</p> <p>大きなサイズの靴、子ども用の靴 大きいカバン、小さいカバンなど 車、ミニカー 指導者用の机、子ども用の机 大きなサイズのお菓子の箱・普通サイズのお菓子の箱 大型絵本(図書館等で貸し出している)・普通サイズの絵本</p>
<p>10 平仮名の読み・書き(拗音 ちゃちゅ ちょぢゅ ぢゅ)</p> <p>20~30分 単活動可</p>	<p>(1) ちとやが書かれたカードを見せながら、指導者が初めはゆっくり「ちーやーちーや」と言い、徐々にスピードを上げ、やのカードを裏返してやのカードに変え、ち やの組合わせにして「ちゃ」と短く切って言うてみせる。子どもも同じように初めはゆっくり言い、徐々にスピードを上げ、最後にやをぢにしたら「ぢゅ」と言うようにする。</p>	<p>ち、ち、やの裏にや、ぢの裏にめ、よの裏によと書いたカード 「50音表」を掲示する。</p>

	<p>(2) 「ちや」と「ちゃ」の発音の違いを理解したら、縦書きと横書きの「ちや」というカードを見せて、書く練習をさせる。</p> <p>(3) 同様に、「ちゅ ちよ」の練習をさせる。</p> <p>(4) 指導者の発音を聞いて、その文字のガードを並べるゲームを行う。</p> <p>※子どもの机の上に、ち や ゅ よのガードを用意しておき、指導者が「ちゃ」と言ったら、子どもはちとやを選び、並べる。同様に、ち や ゅ よも行う。</p> <p>(5) 『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P66、67】に出てくる単語を練習する。「ちょう、おちや、かほちや、ちゅうしゃ」を練習させる。</p>	<p>平仮名なぞり書きシート</p> <p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (丸人社)【P66、67】</p>
<p>11 挨拶</p>	<p>T：終わりました。さようなら。</p> <p>C：終わりました。さようなら。</p>	
<p>家庭学習</p>		<p>備考・連絡</p>
<p>「拗音 ちやちゅちよちやちゅちよ」の平仮名なぞり書きシート 『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(丸人社) 【P66、67】</p>		

ありがとう
ごめんなさい



学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○いる／いない ○わすれた／かして／ありがとう ※「わすれた」は扱わない。 ○いっしょにあそぼう／いいよ ○ありがとう／ごめんなさい ○平仮名の読み・書き（拗音 にゃにゅにょ） ○平仮名の読み・書き（促音とここまでの拗音）の復習		○いる／いない ○かして／ありがとう ○けしゴム のり じしよ ハンカチ ものさし あかえんぴつ トイレ ○やすみじかん ○いっしょにあそぼう／いいよ ○ありがとう／ごめんなさい ○にゃ にゅ にょ ○ぎゅうにゅう ○がっこう、せつけん、きって、もっきん、きょうしつ、 としよしつ、しょくいんしつ、しゃしん、でんしゃ
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 (その子どもの母国語でも挨拶をする。)	
2 日付と天気の特徴の復習 	(1) 「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようびですか？」 「きょうのてんきはなんですか？」と聞く。 (2) 子どもが答えられないようならば、カレンダーを指差しながら、「きょうは、○がつ、○にち、○ようびです。」外の天気を見ながら「きょうのてんきは、(例)くもりです。」と言い、子どもにも言わせる。 (3) 黒板に「○がつ○にち○ようび てんき (例)くもり」と書き、子どもと一緒に言う。 (4) もう一度、最後に「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようびですか？」「きょうのてんきは、なんですか？」と聞き、子どもに「きょうは、○がつ○にち、○ようびです。きょうのてんきは、(例)くもりです。」と答えさせる。	
3 誕生日の特徴の復習 	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シートを使って、友達やいろいろな先生の誕生日を開き、書き込んでいくことで復習をさせる。 ※友達や先生に尋ねて、新たに分かった誕生日についてのみ扱う。	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シート（子ども用・指導者用）
4 家庭学習の答え合わせ	拗音ちゃちゅちよの平仮名なぞり書きシートの答え合わせをする。シートの絵と文字を指差し、一つずつ指書きさせて、正しく書けていれば○をつける。 「ちょう、おちや、かばちや、ちゅうしゃ」	『ひろこさんのたのしいはongo! ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅう

		ちょう】 （凡人社）【P66, 67】
5 ディクテーション	「ちょう」と言って、子どもが「ちょう」と言って、正しく書ければ○。同様に「おちゃ、かぼちゃ、ちゅうしゃ」まで、ディクテーション（聞き取り）を行う。子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。	ディクテーション用 テスト用紙
6 単語テスト	『ひろこさんのたのしいにはんご』 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P66, 67】を使って、絵を見て、その名前を平仮名で書かせる。 「ちょう、おちゃ、かぼちゃ、ちゅうしゃ」	『ひろこさんのたのしいにはんご』 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P66, 67】
7 「たべる／のむ」、「おおきい／ちいさい」の復習	(1) 「たべる／のむ」の復習をさせる。 実際の場面を使って復習をさせる。 （例1） T：（鉛筆を見せて、）これはえんぴつです。たべる？たべない？ C：たべない。 （例2） T：（コップに入った水を見せて、）これはみずです。のむ？のまない？ C：のむ。 T：どうぞ。（と言って飲ませる。） ※子どもが飲まないと答えた場合は、指導者が飲むと言って飲んでもよい。 （例3） T：（動物図鑑や動物カードで猿を見せて、）これはさるです。（と言い、果物図鑑や果物カードでバナナを見せて、）バナナ、たべる？たべない？ C：たべる。 (2) 「おおきい／ちいさい」の復習をさせる。 実際の場面を使って復習させる。 （例） 植木剪定用の大きな鋏と子どもの工作用の小さい鋏を用意して比較する。植木剪定用の大きい鋏を指差し「これは、おおきい？ちいさい？」と聞き、子どもに「おおきい。」と	『日本語学級1初期必修の語彙と文字』（凡人社）【P78～81】 鉛筆など具体物 水の入ったコップなど具体物  動物図鑑、動物カード等（猿の絵や写真） 果物図鑑、果物カード等（バナナの絵や写真）  植木剪定用の大きな鋏・工作用の小さい鋏



	<p>答えさせる。子ども用の小さい鉄を指差して「これは、おおい？ちいさい？」と聞き、「ちいさい。」と答えさせる。(その他、大人用の大きなものと、子ども用の小さなものを比較させる。)</p>	
<p>8 「いる／いない」の表現</p> <p>10~20分 単活動可</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P72, 73】を使い、「いる／いない」の使い方を覚えさせる。</p> <p>(1) 実際の場面を使って復習させる。</p> <p>(例1)</p> <p>T: (自分を指差し、) ここに、(わたし) せんせい、いる？</p> <p>C: せんせい、いる。</p> <p>(例2)</p> <p>T: ここに、おかあさん、いる？</p> <p>C: ここに、おかあさん、いない。</p> <p>(2) 絵本『新ウォーリーをさがせ』シリーズを使う。指導者が「ウォーリー、いる？いない？」と聞く。子どもはウォーリーを探し、見付けたら「いる」、見つからない場合は、「いない」と答える。見付けた場合は、指導者は「ウォーリー、ここに、いる。」と言ひ、見つからない場合は、「ウォーリー、いない？」ともう一度聞く。(指導者と子どもと一緒にウォーリーを探してもよい。ゲーム感覚で、どちらが早くウォーリーを探し出せるかを競ってもよい。)</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P72, 73】</p> <p>絵本『新ウォーリーをさがせ』(フレーベル館)</p> <p>著: マーティン・ハンドフォード</p> <p>※ 『ウォーリーをさがせ』に類似した絵本を使っても可。</p>
<p>9 「かして／ありがとう」の表現</p> <p>10~20分 単活動可</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P74, 75】を使う。「かして、ありがとう」の他にも「けしごむ、のり、じしよ、ハンカチ、ものさし、はさみ、あかえんぴつ」などの単語も覚えさせる。</p> <p>※【P76, 77】は扱わない。</p> <p>(1) 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P74】の①のイラストを使う。指導者の筆箱の中を見せて、「けしごむ、ない。」と言う。そして、手を出しながら、子どもに「かして。」と言う。</p> <p>(2) 子どもから消しゴムを借りたら、指導者は、明るく大きな声で「ありがとう。」と答える。</p> <p>(3) 吹き出しの中に、指導者が「ありがとう」と書き入れ、(1)~(2)を繰り返す。</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P74, 75】</p> <p>消しゴム、のり、辞書、ハンカチ、ものさし、はさみ、鉛筆、赤鉛筆</p>

	<p>(4) 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P74】の②のイラストを使う。①～⑤までのイラストを見ながら、模範の答えを言い、それに続いて同じように言わせる。</p> <p>①の例： T：えんぴつ、かして。 C：えんぴつ、かして。</p> <p>(5) ①～⑤まで言うことができたなら、平仮名で答えを書かせる。</p> <p>※イラスト④の「トイレを貸して。」という場面は、少し種類が異なるので扱わない。</p> <p>(6) 実際の場面で練習を行う。</p> <p>①の例：子どもに聞こえる声ではっきりと「マルコスさん、えんぴつ、かして。」と言う。子どもに貸してもらったら、明るい声で「マルコスさん、ありがとう。」と答える。</p> <p>※人にもものを頼むときには、「〇〇さん」と友達等相手の名前を呼んでから、「〇〇（もの）+かして」を言うように指導する。</p> <p>※人から何かをしてもらったなら、「ありがとう」と言うことは、大切なソーシャル・スキルである。H頃から指導者も「ありがとう」を言い、子どもの手本となるようにする。</p> <p>(7) ①～⑤までの吹き出しの中に、「ありがとう」と書き込ませる。</p> <p>(8) 「〇〇（もの）+かして。」実際の場面で使う練習を行う。</p> <p>例：在籍学級で生活する時間が増えてきているので、指導者が付き添い、在籍学級の子ども相手に「マルコスさん、えんぴつかして。」と一緒に言う練習をする。なるべく、実際に子どもが貸してもらいたいものを「かして。」と言わせる。</p> <p>※相手子どもに、状況を説明し、貸す役割をしてもらってもよい。</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P74】の①のイラストの一番右側のイラストのところに、吹き出しを書いておく。（後で、「ありがとう。」という言葉を書き入れるため。）</p> <p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P74】の②のイラストの一番右側のイラストのところに、吹き出しを書いておく。（後で、「ありがとう。」という言葉を書き入れるため。）</p>
<p>10 「いっしょにあそぼう／いいよ」の表現</p>	<p>『ともだちになろう！』【P19、20】を使い、休み時間等によく使う表現「いっしょにあそぼう／いいよ」の使い方を覚えさせる。</p> <p>(1) 『ともだちになろう！』【P19】のイラストを使う。「や</p>	<p>『ともだちになろう！』（静岡県教育委員会）【P19、20】</p>

10~20分
単活動可

すみじかんです。」と言ってから、イラストを見ながら、子どもと一緒に繰り返し読む。

T：(「いっしょにあそぼう。」のイラストを指差しながら) いっしょにあそぼう。

C：いいよ。

T：(「トイレ いこう。」のイラストを指差しながら) トイレ いこう。

C：いいよ。

(2) 『ともだちになろう!』【P20】の下のイラストの吹き出しをそれぞれ指差し、子どもと一緒に繰り返し読む。

T：いっしょにあそぼう。いいよ。

C：いっしょにあそぼう。いいよ。

(3) 『ともだちになろう!』【P20】の下のイラストを見ながら、吹き出しに当てはまる言葉を子どもに言わせる。

※相手に近づく、相手をきちんと見る、聞こえる声で話す、笑顔で言うことを指導する。

『にほんごをまなぼう』(文科省)【P28、29、30、31】のイラストを見ながら学習することもできる。

11 「ありがとう／
ごめんなさい」
の表現

10~20分
単活動可

『ともだちになろう!』【P19、20】を使い、「ありがとう／ごめんなさい」の使い方を覚えさせる。

(1) 『ともだちになろう!』【P19】のイラストを使う。「やすみじかんです。」と言ってから、イラストを見ながら、子どもと一緒に繰り返し読む。

T：(たいいくかんでバレーボールを拾ってくれたところのイラストを指差しながら) ありがとう。(と言い、子どもに言わせる。)

C：ありがとう。

T：(頭にごぶをつくり泣いているところのイラストを指差しながら) ごめんなさい。(と言い、子どもに言わせる。)

C：ごめんなさい。

※相手に近づく、相手をきちんと見る、聞こえる声で話す、笑顔で言うことを指導する。

(2) 『ともだちになろう!』【P20】の下のイラストの吹き出しを指導者がそれぞれ指差し、子どもと一緒に繰り返し読む。

T：(ボールでガラスを割ってしまった子どもの吹き出しを指差し) ごめんなさい。(と言い、子どもに言わせる。)

『ともだちになろう!』(静岡市教育委員会)【P19、20】

	<p>C：ごめんなさい。</p> <p>T：(紙を破ってしまった子どもの吹き出しを指差し) ごめんなさい。(と言い、子どもに言わせる。)</p> <p>C：ごめんなさい。</p> <p>T：(肩をぶつけてしまった子どもの吹き出しを指差し) ごめんなさい。(と言い、子どもに言わせる。)</p> <p>C：ごめんなさい。</p> <p>(3) 実際に休み時間に、在籍学級の子も等が遊んでいる運動場や体育館等に連れていき、「いっしょにあそぼう／いいよ」や「ありがとう／ごめんなさい」という表現を使う機会を作る。</p>	
<p>12 拗音にゃにゅ よの平仮名 の読み書きを 覚える。</p>	<p>(1) に、やが書かれたカードを見せながら、指導者が初めはゆっくり「にーやーにーや」と言い、徐々にスピードを上げ、やのカードを裏返してゃのカードに変え、に、ゃの組み合わせにして「にゃ」と短く切って言ってみせる。子どもにも指導者と同じように初めはゆっくり言い、徐々にスピードを上げ、最後にゃをゃにしたら「にゃ」と言うようにさせる。</p> <p>(2) 「にゃ」と「にゅ」の発音の違いを理解したら、縦書きと横書きの「にゃ」というカードを見せて、言わせてから書く練習を行わせる。</p> <p>(3) 同様に、「にゅ にょ」の練習をさせる。</p> <p>(4) 指導者の発音を聞いて、その文字のカードを並べるゲームを行う。</p> <p>※子どもの机の上に、に、ゃ、ゅ、ょのカードを用意しておき、「にゃ」と言ったら、子どもはにとゃを選び、並べる。</p> <p>(5) 『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(丸人社) 【P68】の単語「ぎゅうにゅう」を練習させる。</p> <p>(6) 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P84、85】を使って、「がっこう、せっけん、きって、もっきん、べんきょう、きょうしつ、としょしつ、しよくいんしつ、しゃしん、ぎゅうにゅう、でんしゃ」の単語を確認しながら、子どもに書かせる。※同じものを家庭学習にする。</p>	<p>に、ゃの裏にゃ、ゅの裏にゅ、よの裏にょと書いたカード 「50 音表」</p> <p>平仮名なぞり書きシート</p> <p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 (丸人社)【P68】</p> <p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』 (丸人社)【P84、85】</p>

13 平仮名の読み書きの総復習 (読み聞かせ)	絵本『にゃーご』の読み聞かせをする。ストーリーは子どもに理解できなくても、絵を見せて「にゃーご」という発音を聞かせることで猫の鳴き声「にゃーご」が伝わる。「にゃ」という音を強調する。子ども分も用意し、一緒に読むとよい。 ※ 子どもの実態に合わせて読む。必要に応じて説明を加える。	絵本『にゃーご』宮西達也（鈴木出版）
14 挨拶	T：終わりました。さようなら。 C：終わりました。さようなら。	
家庭学習		備考・連絡
<p>「拗音 にゃにゅによの平仮名なぞり書きシート」 『ひろこさんのたのしいほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P68】 ※P68には、単語が「ぎゅうにゅう」1つしかないので、「にゃ にゅ によ」を練習するシートを用意するとよい。 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』【P84、85】</p>		

今日の活動・指導のヒント



(1) 「9『かして／ありがとう』の表現」、10『いっしょにあそぼう／いいよ』の表現」11『ありがとう／ごめんなさい』の表現」について。

「いっしょに帰ろう」などの日本語表現を覚えさせるだけでは不十分である。相手の近くへ行行って、その人をきちんと見て、聞こえるように言うことで気持ちが伝わることを指導することが大切である。




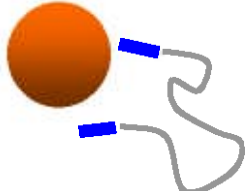
そのためには、各場面で想定して演じてみる、ロール・プレイ練習を行うとよい。基本は「言って聞かせ、やってみせて、やらせてみて、ほめる」を繰り返す。「こんな場面ではこういう表現を使うよ。」と説明してから、指導者がお手本を示し、子どもにもやらせてみて、うまくできれば大いにほめ、もう少し練習が必要な場合には支援をして、もう一度やらせてみることである。（『こどもにはんご宝島』別冊「支援者のための使い方のヒント」を参照する。）



あそぼう
いいよ

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○サバイバル表現 12 日目から 17 日目までの復習 ○診断テスト ○あそぼう（遊びに誘うときの言い方。） ○こんなとき、何で言う？ ○平仮名の読み・書き（拗音 ひゃひゅひょ ひゃひゅひょ ひゃひゅひょ）		○いる／いない、これだれの？、ここ／どこ／あそこ、みぎ／ひだり／まんなか、うえ／した、いたい、でんわ、いる／いない、わすれた／かして／ありがとう、いっしょにあそぼう／いいよ／ありがとう／ごめんなさい、たべる／のむ、おおきい／ちいさい ○あそぼう、サッカー、ドッジボール、なわとび、かけっこ、いちりんしゃ、すなば ○おはよう、いれて、いっしょにかえろう、なに？みせて、けしごむ かして、つき やらせて、いっしょにあそぼう、いっしょにいこう、どうしたの？だいじょうぶ？、あぶない、たすけて ○ひゃひゅひょ、ひゃひゅひょ、ひゃひゅひょ ○ひやく、ひょういん、ひょうき、ろっぴやく
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 (その子どもの母国語でも挨拶をする。)	
2 日付と天気の尋ね方の復習 	(1) 「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようびですか？」 「きょうのてんきはなんですか？」と聞く。 (2) 子どもが答えられないようならば、カレンダーを指差しながら、「きょうは、○がつ、○にち、○ようびです。」外の天気を見ながら「きょうのてんきは、(例) はれ です。」と言ひ、子どもにも言わせる。 (3) 黒板に「○がつ○にち○ようび てんき (例) はれ」と書き、子どもと一緒に言う。 (4) もう一度、最後に「きょうは、なんがつ なんにち？なんようびですか？」「きょうのてんきはなんですか？」と聞き、子どもに「きょうは、○がつ○にち、○ようびです。きょうのてんきは、(例) はれです。」と答えさせる。	カレンダー
3 誕生日の尋ね方の復習 	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シートを使って、友達やいろいろな先生の誕生日を聞き、書き込んでいくことで復習をさせる。 ※友達や先生に尋ねて、新たに分かった誕生日についてのみ扱う。	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シート（子ども用・指導者用）

<p>4 家庭学習の答え合わせ</p>	<p>(1) 家庭学習の拗音にゃにゅにょの平仮名なぞり書きシート『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P68】の答え合わせをする。「ぎゅうにゅう」と言わせてからなぞり書きをさせて、正しく書けていれば○をつける。</p> <p>(2) 『日本語学級1』【P84、85】の答え合わせをする。「がっこう せつけん きって もっきん べんきょう きょうしつ としよしつ しよくいんしつ しゃしん ぎゅうにゅう でんしゃ」をなぞり書きさせて、正しく書けていれば○をつける。</p>	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』 【P68】 『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P84、85】</p>
<p>5 ディクテーション</p>	<p>「ぎゅうにゅう」と言って、子どもが「ぎゅうにゅう」と言って、正しく書ければ○。(ディクテーション(聞き取り)を行う。)同様に、「にゃ にゅ にょ」も行う。子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。</p>	<p>ディクテーション用テスト用紙</p>
<p>6 単語テスト</p>	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P62】のシートを使って、単語テストを行う。</p> <p>「がっこう せつけん きって もっきん べんきょう きょうしつ としよしつ しよくいんしつ しゃしん ぎゅうにゅう でんしゃ」</p>	
<p>7 「いる／いない」の復習</p> 	<p>(1) 「いる／いない」の復習をさせる。 ※実際の場面を使って練習をさせる。</p> <p>例1：自分を指差し、「ここに、(わたし)せんせい、いる？」と聞く。 子どもは、「せんせい、いる。」と答える。</p> <p>例2：指導者が、「ここに、おかあさん、いる？」と聞く。 子どもは、「ここに、おかあさん、いない。」と答える。</p> <p>例3：絵本『新ウォーリーをさがせ』シリーズを使い、指導者が「ウォーリー、いる？いない？」と聞く。子どもはウォーリーを探し、見付けたら「いる。」、見つからない場合は、「いない。」と答える。</p>	<p>『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P72、73】 絵本『新ウォーリーをさがせ』(フレーベル館) 著：マーティン・ハンドフォード ※『ウォーリーをさがせ』に類似した絵本を使っても可。</p>
<p>8 「かして／ありがとう」、「いっしょにあそぼう」</p>	<p>(1) 「かして／ありがとう」 (2) 「いっしょにあそぼう／いいよ」 (3) 「ありがとう／ごめんなさい」の復習をさせる。</p>	<p>『日本語学級1 初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P74、77】</p>



<p>／いいよ」「ありがとう／ごめんなさい」「こんなとき、何て言う？」の復習</p> 	<p>※実際の場面を使って復習させる。</p> <p>(例1) 「〇〇さん、けしごむ、かして。」と言う。子どもは「いいよ。」と答え、指導者に貸す。子どもに貸してもらったら「ありがとう。」と答える。</p> <p>(例2) トランプを出し、「いっしょにあそぼう！」と言う。子どもは「いいよ。」と答える。</p>	<p>『ともだちになるう！』(静岡県教育委員会)【P19、20】 『にほんごをまなぼう』(文部省)【P30、31】 トランプ 『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』(凡人社)【P82～85】</p>
<p>9 サバイバル表現12日目～17日目までの復習。</p> 	<p>以下の項目を、『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』等を使い、復習させる。</p> <p>7 いる／いない、21 これ だれの？ 22 ここ／どこ／あそこ、 23 みぎ／ひだり／まんなか 24 うえ／した 25 いたい 26 でんわ 27 いる／いない 28 わすれた／かして／ありがとう</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』(凡人社)の該当項目を使う。</p>
<p>10 診断テスト(第1章 第21～30課テスト)</p>	<p>付属の診断テストを使って確認テストを行う。</p>	<p>『日本語学級Ⅰ初期必修の語彙と文字』(凡人社)第1章第21～30課テスト</p>
<p>11 遊びに誘うときの表現(仲間づくりの表現の復習)</p> 	<p>第17日目に「かして／ありがとう」「いっしょにあそぼう／いいよ」「ありがとう／ごめんなさい」の学習をしているが、復習を兼ねて繰り返して行う。</p> <p>今回は、『にほんごをまなぼう』(文部省)【P28、29】と『こどもにほんご宝島』(アスク出版)【P30～33】第7話「こんなとき、何て言う？」を使う。</p> <p>(1) 『にほんごをまなぼう』【P28】のイラストを使う。文章が長く難しいので、「あそぼう。」「入れて。」「いいよ。」という大切な言葉を特に取り上げて扱う。</p> <p>(2) 『にほんごをまなぼう』【P29】のイラストを使う。「ドッジボール」「なわとび」「かけっこ」「いもりんしゃ」「すなは」などの、遊びや遊び場の名前を覚える。砂場には実際に行くをよい。その時期にその子どもの在籍する学級で流行している遊びの名前を覚えさせる。</p> <p>(3) 『こどもにほんご宝島』【P30～33】を使い、状況に</p>	<p>『にほんごをまなぼう』(文部省)【P28、29】「7 あそぼう」</p>  <p>ドッジボール、縄跳びの縄、輪車</p> <p>『こどもにほんご宝島』</p>

	<p>応じて、何と言うのかを考えさせる。※実際の場面を使って復習させる。</p> <p>(例1)</p> <p>子どもに向かって、「〇〇さん、トイレ、いっしょにいこう!」と誘い、実際にトイレに子どもと一緒にいく。続いて、子どもに「せんせい、トイレ、いっしょにいこう!」と言う練習をさせる。指導者に言ったら、実際にトイレと一緒にいく。</p> <p>(例2)</p> <p>休み時間等に、指導者が子どもに付き添い、雑談びなどをして遊んでいる友達のところまで連れていく。遊んでいる友達に対して「いれて!」と言う練習をした後、手本を見せて、「いれて!」と言う。続いて子どもにも言わせて仲間に入れてもらい、一緒にその遊びをする。</p>	<p>島』(アスク出版)【P30～33】「第7話 こんなとき、何て言う?」</p>
<p>12 平仮名の読み書き (拗音 ひゃひゅひょ びゃびゅびょ)</p> <p>10～20分 単活動可</p>	<p>(1) ひとやが書かれたカードを見せながら、指導者が初めはゆっくり「ひーやーひーや」と言い、徐々にスピードを上げ、やのカードを裏返してやのカードに変え、ひ やの組み合わせにして「ひゃ」と短く切って言ってみせる。子どもにも指導者と同じように初めはゆっくり言い、徐々にスピードを上げ、最後にやをにしたら「ひゃ」と言うようにさせる。</p> <p>(2) 「ひゃ」と「ひゃ」の発音の違いを理解したら、縦書きと横書きの「ひゃ」というカードを見せて、書く練習をさせる。</p> <p>(3) 同様に、「ひゅ ひょ びゃ びゅ びょ びゃ びゅ びょ」の練習をさせる。</p> <p>(4) 指導者の発音を聞いて、カードを用いて、その発音を作るゲームを行う。</p> <p>※子どもの机の上に、ひ ひ ひ や ゆ よのカードを用意しておき、指導者が「ひゃ」と言ったら、子どもはひとやを選び、並べる。「びゃ」と言ったら、子どもはひとやを選び、「びゃ」と言ったら、子どもはひとやを選び、並べる。</p> <p>(5) 『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんじゅうちょう』【P69、70】の単語「ひやく びょういん、びょうき、ろっぴやく」を練習させる。</p>	<p>ひ、ひ、ひ、やの裏にや、ゆの裏にゆ、よの裏によと書いたカード</p> <p>「50音表」を掲示する。</p> <p>平仮名なぞり書きシート</p> <p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんじゅうちょう』(凡人社)【P69、70】</p>


13 読み聞かせ	<p>絵本『いないいない ばあ』の読み聞かせをする。読み終えた後、指導者が実際に顔を隠して「いない いない」と言い、顔を見せて「ばあ」と言って、楽しく文字表記の復習をさせる。</p> <p>子ども用も用意しておき、一緒に声を出して読むこともよい。「いない いない ばあ」という日本の文化（遊び）を教えることにもなる。</p>	絵本『いないいない ばあ』著：松谷みよ子（童心社）
14 挨拶	<p>T：終わりました。さようなら。</p> <p>C：終わりました。さようなら。</p>	
家庭学習		備考・連絡
<p>拗音 ひゃひゅひよ ひゃびゅびよ ひゃびゅびよの平仮名なぞり書きシート （『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅう うらよう』【P69、70】）</p> <p>「ひゃく ひょういん、ひょうき、ろっぴゃく」</p>		



いくつといくつ
あわせていくつ

学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○サバイバル表現（総復習） ○簡単な足し算 「〇は、いくつといくつですか？」 「あわせて いくつですか？」 ○文字表記等の総復習 ○平仮名の読み・書き（拗音 みやみゆみよ りやりゆりよ）		○みや みゆ みよ りや りゆ りよ ○みやく、りゆう、りようり ○あか、あお ○おはじき、きんぎょ ○いくつといくつ ○あわせていくつ
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 （その子どもの母国語でも挨拶をする。）	
2 日付と天気 の尋ね方の 復習 	(1) 「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようびですか？」「きょうのてんきはなんですか？」と聞く。 (2) 答えられないようならば、カレンダーを指差しながら、「きょうは、〇がつ、〇にち、〇ようびです。」外の天気を見ながら「きょうのてんきは、(例)くもり です。」と言い、子どもにも言わせる。 (3) 黒板に「〇がつ〇にち〇ようび てんき (例)くもり」と書き、子どもと一緒に言う。 (4) もう一度、最後に「きょうは、なんがつ なんにち なんようびですか？」「きょうのてんきはなんですか？」と聞き、子どもに「きょうは、〇がつ〇にち、〇ようびです。きょうのてんきは、(例)くもりです。」と答えさせる。	
3 誕生日の尋 ね方の復習 	たんじょうびは、なんがつなんにち？」シートを使って、友達やいろいろな先生の誕生日を聞き、書き込んでいくことで復習をさせる。 ※友達や先生に尋ねて、新たに分かった誕生日についてのみ扱う。	「たんじょうびは、なんがつなんにち？」シート（子ども用・指導者用）
4 家庭学習の 答え合わせ	家庭学習の「拗音 ひゃびゅびょ ひゃびゅびょの平仮名なぞり書きシート」の答え合わせをする。シートの絵と文字を指差し、一つずつ指書きさせて、正しく書けていれば〇をつける。	『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』【P.69、70】
5 ディクテー ション	「ひゃく、びょういん、びょうき、ろっぴゃく」「ひゃく」と言って、子どもが「ひゃく」と言って、書ければ〇。同様に「びょういん、びょうき、ろっぴゃく、ひゅ、ひよ、びゃ、びゅ、ひよ、びゃ、びゅ、びょ」についてもディクテーション（聞き取り）をす	ディクテーション用テスト用紙

	<p>る。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。</p>	
<p>6 拗音 みや みゆ みよ の平仮名の 読み書き</p>	<p>(1) みとやが書かれたカードを見せながら、初めはゆっくり「みーやーみーや」と言い、徐々にスピードを上げ、やのカードを裏返してやのカードに変え、み やの組み合わせにして「みや」と短く切って言ってみせる。子どもにも同じように初めはゆっくり言い、徐々にスピードを上げ、最後にやをやにしたら「みや」と言うようにさせる。</p> <p>(2) 「みや」と「みや」の発音の違いを理解したら、縦書きと横書きの「みや」というカードを見せて、書く練習をさせる。</p> <p>(3) 同様に、「みゆ みよ」の練習をさせる。</p> <p>(4) 指導者の発音を聞いて、その文字のカードを並べるゲームを行わせる。</p> <p>※子どもの机の上に、み や ゆ よのカードを用意しておき、指導者が「みや」と言ったら、子どもはみとやを選び、カードを並べる。</p> <p>(5) 『ひろこさんのたのしいにほんご！ ひらがな・かな・かんじ れんしゅうちょう』（凡人社）【P71】の単語「みやく」を練習させる。</p>	<p>み、やの裏にや、ゆの裏にゆ、よの裏によと書いたカード</p> <p>「50音表」を掲示する。</p> <p>平仮名なぞり書きシート</p> <p>『ひろこさんのたのしいにほんご！ ひらがな・かな・かんじ れんしゅうちょう』（凡人社）【P71】「みや みゆ みよ」のひらがななぞり書きシートを作成しておく。</p>
<p>7 拗音 りゃ りゅ りょ の平仮名の 読み書き</p>	<p>(1) りとやが書かれたカードを見せながら、指導者が初めはゆっくり「りーやーりーや」と言い、徐々にスピードを上げ、やのカードを裏返してやのカードに変え、り やの組み合わせにして「りゃ」と短く切って言ってみせる。子どもにも同じように初めはゆっくりで言い、徐々にスピードを上げ、最後にやをやにしたら「りゃ」と言うようにさせる。</p> <p>(2) 「りゃ」と「りゃ」の発音の違いを理解させたら、縦書きと横書きの「りゃ」というカードを見せて、書く練習をさせる。</p> <p>(3) 同様に、「りゅ りょ」の練習をさせる。</p> <p>(4) 指導者の発音を聞いて、その文字のカードを並べるゲームを行う。</p> <p>※子どもの机の上に、り や ゆ よのカードを用意しておき、指導者が「りゃ」と言ったら、子どもはりとやを選び、言わせてから並べる。</p>	<p>り、やの裏にや、ゆの裏にゆ、よの裏によと書いたカード</p> <p>「50音表」を掲示する。</p> <p>「料理」と「龍」の絵や写真</p>

	<p>(5) 『ひろこさんのたのしいほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』には、拗音ら行の単語を練習するページがないので、「りょうり(料理) りゅう(龍)」という単語等を使って、ひらがななぞり書きシートを作り、練習をさせる。</p>	<p>「りゅう りょうり」等を、『ひろこさんのたのしいほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』の平仮名なぞり書きシートのような形にしたもの。</p>
<p>8 「いくつといくつですか？」の理解</p> <p>20~30分 単活動可</p>	<p>(1) 1~10、0の数字の読み方を復習させる。</p> <p>(2) 実際に、鉛筆や机など、物の数を数えるようにさせる。</p> <p>(3) 中が二つに仕切られ、上からボールを入れられる箱を使って、ある数がいくつといくつで成り立っているかを学習させる。</p> <p>第1段階：「ボールが、1、2、3、4、5、5ある。」と言う。5個のボールを箱の中に入れる。左側には3個、右側には2個入っている。→指導者が子どもと一緒にボールを数え、「ひだり、3。みぎ、2。5は、3と2です。」と言う。 (黒板等にも書く。)</p> <p>続いて、ボールの数を入れ替え、「では、ひだりが1のとき、みぎは、いくつですか？」と聞く。子どもは、「4です。」と答える。指導者が「そうです。5は、1と4です。」と言い、子どもも続いて言う。</p> <p>第2段階：同様に、合計6個のボールを使い、箱の左側に3個、右側に3個入っている場合を扱う。</p> <p>第3段階：同様に合計7個のボールを使って行う。</p> <p>(4) 数当て遊びを行う。今度は、箱の右側だけが見えないようにしておく。全部でボールが○個あり、左が□個のとき、右の数を聞く。</p> <p>例：「ボールが7(こ)ある。ひだりに3(こ)ある。みぎはいくつですか？」と聞く。子どもが「4です。」と答える。</p> <p>(慣れてきたら役割を交代して行ってもよい。)</p> <p>(5) 8個のおはじきを使って、いくつといくつで成り立っているかを学習させる。</p> <p>8個のおはじきを一緒に数える。次に、右の手</p>	<p>小学校第1学年 算数教科書 教科書準拠ドリル等</p> <p>中が二つに仕切られ、上からボールを入れられる箱(子ども側から見えるようになっている。)</p> <p>箱に入れるためのボール 10個</p> 

のひらに3個、左の手のひらに5個載せている。指導者が右の手を見せて、「みぎ、3。」左の手を見せて、「ひだり、5。」と言う。そして、「8は、3と5です。」と言う。子どもと一緒に「8は、3と5です。」と言う。

(6) 10個の積み木ブロックを使って、いくつといくつで成り立っているかを学習させる。

第1段階：10個の積み木ブロックを横に並べて置く。積み木ブロックの数を指導者と子どもと一緒に数える。次に、指導者が9と1に分ける。指導者が、「10は、いくつといくつですか？」と聞き、子どもが「10は、9と1です。」と答える。

第2段階：積み木ブロックを8と2に分けて並べて置く。「10は、いくつといくつですか？」と聞き、子どもが「10は、8と2です。」と答える。(同様に、③7と3、④4と6、・・・というように、1と9まで行う。)

※数が順に並んでいることに気付かせたい。

算数セット おはじき
算数セット 積み木ブロック

(参考) 10個の積み木ブロックを順番になるように並べる。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

※百玉そろばんを使うと分かりやすい。

9 「あわせていくつ」の理解

20~30分
単活動可

積み木ブロックを使って、「あわせて、いくつ」という表現を覚えさせる。




第1段階：積み木ブロックを右手に2個、左手に1個持ち、「積み木ブロックが2（こ）あります。積み木ブロックが1（こ）あります。」と言う。次に、机の上の皿の上に合わせて置きながら、「積み木ブロックは、あわせて、3（こ）です。」と言う。繰り返して、子どもと一緒に言う。

※「あわせて」を強調する。

第2段階：(例) 水槽に3匹と2匹の金魚を入れる絵を見せる。「きんぎょは、あわせて、なんびきになるでしょうか？」と聞く。積み木ブロックを使って、水槽の絵の上に、3個と2個の積み木ブロックを子どもと一緒に置く。次に、3個と2個のブロックを合わせて並べ、5個の塊にする。「3と2をあわせると、5になる。」と言う。子どもと一緒に繰り返し言って練習させる。



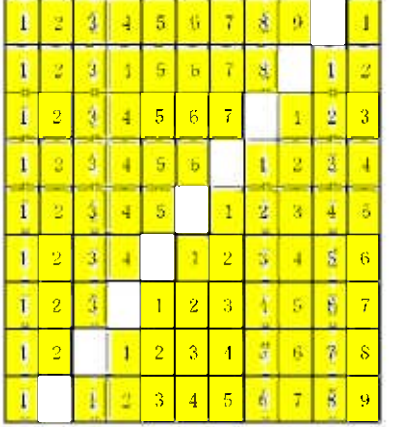
※「個」「匹」等の序数詞は、子どもの実態に応じて教える。

小学校第1学年 算数教科書
教科書準拠ドリル等
算数セット 積み木ブロック

<p>10 サバイバル表現全体の復習</p> 	<p>『日本語学級1初期必修の語彙と文字』を使用し、今まで学習したサバイバル表現全体を復習させる。付録の①第1～10課、②第11～20課、③第21～30課のテストを行い、全て口頭で答えさせる。その結果、特に、その子どもが苦手とする表現を中心に復習させる。</p>	<p>『日本語学級1初期必修の語彙と文字』 (凡人社)【付録のテスト】</p>
<p>11 遊びに誘うときの表現</p> 	<p>『こどもにほんご宝島』【P30～33】を使い、状況に応じて、何と云うのかを考えさせる。 ※実際の場面を使って復習させる。 (例1)「〇〇さん、うんどうじょう、いっしょにいきましょう!」と誘い、運動場と一緒にいく。 (例2) 遊具の所に行き、遊具の名前を教える。ぶらんこで、「いっしょに、ぶらんこで、あそぼう。」と言って一緒にぶらんこで遊ぶ。</p>	<p>『こどもにほんご宝島』(アスク出版)【P30～33】「第7話 こんなとき、何て言う?」</p>
<p>12 文字表記の総復習</p> 	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1』の単語シート等を使い、表記ができるかテストする。特に苦手な文字を復習させる。</p>	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P12、21、28、36、45、51、54、57、60、62、65、67、70】</p>
<p>13 平仮名の読み書きの総復習</p>	<p>絵本『ぐりとぐら』の読み聞かせをする。子ども分も用意し、一緒に読むとよい。</p>	<p>絵本『ぐりとぐら』(福音館書店)著:中川李枝(文)大村百合子(絵)</p>
<p>14 挨拶</p>	<p>T: 終わりました。さようなら。 C: 終わりました。さようなら。</p>	
<p>家庭学習</p>		<p>備考・連絡</p>
<p>拗音 みゃ みゅ みよの平仮名なぞり書きシート (『ひろこさんのたのしいにほんご1』【P71】)「みゃく」 ※このシートに、「みゃ、みゅ、みよ」というなぞり書きシートを追加作成し、家庭学習とする。音 等の平仮名なぞり書きシート ※『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』に、「りゃ、りゅ、りよ、りゅう、りょうり」等の平仮名なぞりシートを作成し、家庭学習とする。</p>		



学習する内容		日本語表現・語彙・文字表記
○サバイバル表現の総復習 ○簡単な足し算 「 $\blacksquare + \bullet = \blacktriangledown$ 」 「ぜんぶでいくつですか？」 「みんなでなんにんですか？」 「たしざんをしましょう」 ○文字表記等の総復習		○しき / $\blacksquare + \bullet = \blacktriangledown$ / こたえ ○ぜんぶで / みんなで / たしざん
流れ	活動（発問・文型・語彙等）	準備物等
1 挨拶	おはようございます。 （その子どもの母国語でも挨拶をする。）	
2 日付と天気 の尋ね方の 復習	(1) 「きょうは、なんがつ、なんにち、なんようび ですか？」「きょうのてんきはなんですか？」と聞 く。 (2) 子どもが答えられないようならば、カレンダー を指差しながら、「きょうは、○がつ、○にち、○ ようびです。」外の天気を見ながら「きょうのてん きは、(例) あめです。」と言い、子どもにも言わ せる。 (3) 黒板に「○がつ○にち○ようび てんき (例) あめ」と書き、子どもと一緒に言う。 (4) もう一度、最後に「きょうは、なんがつ なん にち、なんようびですか？」「きょうのてんきはなん ですか？」と聞き、子どもに「きょうは、○が つ○にち、○ようびです。きょうのてんきは、(例) あめです。」と答えさせる。	カレンダー
3 誕生日の尋 ね方の復習	たんじょうびは、なんがつなんにち？」シートを 使って、友達やいろいろな先生の誕生日を聞き、書 き込んでいくことで復習をさせる。 ※ 友達や先生に尋ねて、新たに分かった誕生日につ いてのみ扱う。	「たんじょうびは、なんがつなん にち？」シート（子ども用・ 指導者用）
4 家庭学習の 答え合わせ	家庭学習の検音みやみゆみよ りやりゆりよ等の 平仮名なぞり書きシートの答え合わせをする。シー トの絵と文字を指差し、言わせ、一つずつ指書きさ せて、正しく書けていれば○をつける。「みやく、み やみゆみよ、りゆう、りょうり、りやりゆりよ」	『ひろこさんのためのしいにほん ご』 ひらがな・かたかな・か んじ れんしゅうちょう』 【P11】

<p>5 ディクテーション</p>	<p>「みやく」と言って、子どもが「みやく」と言っ て正しく書ければ○。同様に「みやく みやみゆみ よ りゆう りょうり りやりゆりよ」についても ディクテーション（聞き取り）をする。子どもが聞 き取ったときは、もう一回聞かせて書けるか確認する。 書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。</p>	<p>ディクテーション用テスト用紙</p>
<p>6 「いくつと いくつです か？」の復 習</p> 	<p>10 個の積み木ブロックを使って、10 がいくつとい くつで成り立っているかを復習させる。 (1) 10 個の積み木ブロックをいろいろな組み合わせ で分け、「この 10 は、いくつといくつですか？」 と聞く。子どもは、「10 は、●と■です。」と答 える。 (アランダムに、10 個の積み木ブロックを分け、 子どもに答えさせる。①9 と 1～⑩1 と 9 までの 9 種類の組み合わせを復習させる。)</p>	<p>小学校第 1 学年 算数教科書 教科書準拠ドリル等算数セット 積み木ブロック (参考) 10 個の積み木ブロックを以下の ような順番になるように並べて いく。</p>
<p>7 「あわせて いくつです か？」の復 習</p> 	<p>花瓶に 3 本の赤い花と 2 本の白い花を入れる絵を 見せる。指導者は「あかいはなが 3 ほんある。しろ いはなが 2 ほんある。はなは、あわせていくつです か？（なんほんですか?）」と聞く。 子どもが「3 と 2、あわせて、5 です。（3 ほんと 2 ほんをあわせると、5 ほんになります。）」と答 える。分からない場合は、積み木ブロック等を使って、 復習する。 ※「本」等の序数詞は、子どもの実態に応じて教え る。</p>	
<p>8 「■+●= ▼」、簡単な 足し算</p>	<p>「あわせていくつですか?」の続きで、足し算の 式を学習する。 (1) 「3 と 2 をあわせると、5 になる。」と黒板等 に書き、その下に「しき 3 + 2 = 5」と書く。 指導者が「3 と 2 をあわせると、5 になる。しき 3 たす 2 は 5。」と読み、読ませて子どもに読ませる。 (2) + と = の書き順をなぞり書きをして覚えさせ る。 「しき 3 たす 2 は 5」と声に出させながら、「し き 3 + 2 = 5」を繰り返して書いて練習させる。</p>	

10~20分
単活動可

- (3) 「ぜんぶでいくつですか？」を学習させる。
例：空の筆箱、1本の鉛筆と3本の鉛筆を用意する。指導者は、空の筆箱に、鉛筆1本と鉛筆3本を入れて、「ぜんぶで、えんぴつはなんぼんですか？」と聞き、「しきをかいてこたえましょう。」と指示する。子どもに、「しき $1+3=4$ 」と書く。繰り返し書いて練習させる。「こたえ 4 (はん)」という答えの書き方も声に出しながら書き、繰り返し練習させる。
- (4) 「みんなでなんにんですか？」を学習させる。
例：中央のベンチに向かって、左の方から4人、右の方から1人が来る絵を使う。絵を見せながら、指導者が「ひだりから4人、みぎから1人、みんなでなんにんですか？」と聞き、「しきをかいてこたえましょう。」と指示する。子どもに「しき $4+1=5$ 」と書かせる。繰り返し書いて練習させる。「こたえ 5 (にん)」という答えの書き方も声に出しながら書き、繰り返し練習させる。
※「人」等の序数詞は、子どもの実態に応じて教える。

鉛筆4本
筆箱



9 サバイバル
表現全体の
復習



『日本語学級1初期必修の語彙と文字』を使用し、今まで学習したサバイバル表現全体を復習する。付録の①第1～10課、②第11～20課、③第21～30課のテストを行う。全て口頭で答えさせる。その結果、特に、その子どもが苦手とする表現を中心に復習させる。

『こども にほんご実用』【P30～33】を使い、状況に応じて、何と言うのかを考えさせる。

※実際の場面を使って復習させる。



(例1) 「〇〇さん、うんどうじょう、いっしょにいきましょう！」と誘い、運動場と一緒にいく。

(例2) 遊具の所に行き、遊具の名前を教える。ぶらんこのところで、「いっしょに、ぶらんこで、あそぼう。」と言って一緒にぶらんこで遊ぶ。

『日本語学級1初期必修の語彙と文字』

(凡人社)【付録のテスト】

『こども にほんご実用』
【P30～33】

<p>10 文字表記の 総復習</p> 	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1』の単語シート等を使い、表記ができるかテストする。特に苦手な文字を復習させる。</p>	<p>『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ れんしゅうちょう』(凡人社)【P12、21、28、36、45、51、54、57、60、62、65、67、70】</p>
<p>11 平仮名の読み書きの総復習(読み聞かせ)</p> 	<p>絵本『おおきなかぶ』の読み聞かせをする。子ども分も用意し、一緒に読むとよい。</p>	<p>『おおきなかぶ』(福音館書店) 著：ロシア民話 再話：A. トルストイ 訳：内田莉沙子 画：佐藤忠良</p>
<p>12 まとめ</p>	<p>日本語初期指導の20日分のカリキュラムが終了したことを伝える。</p> <p>T：これで日本語初期指導は終わります。クラス(在籍学級)に行っても大丈夫です。でも、まだまだカタカナや漢字や言葉のきまりなど勉強することがたくさんあります。これからも日本語の勉強を続けていきましょう。</p> <p>※できれば、参考資料にあるような修了証を渡すとよい。</p>	
<p>13 挨拶</p>	<p>T：終わりました。さようなら。 C：終わりました。さようなら。</p>	

平仮名指導のヒント

※1 このカリキュラムでは、便宜上『ひらがなカード』『ゆびなぞりカード ひらがな』（くもん出版）を使用しているが、自作のカード等を代替してもかまわない。

※2 このカリキュラムでは、文字を書く練習用として、『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ・れんしゅうちょう』を使用しているが、自作のワークシートのドリルなどで代替してもかまわない。最初は大きいマスのもを使う。

＜あ行を学習する場合＞

- (1) 「あ」のカードを見せて、指導者が「あ」と言い、子どもに「あ」と言わせる。
- (2) 次に、裏の楳の絵を見せて、指導者が「あり」と言う。次に、子どもに「あり」と言わせる。「い」、「う」、「え」、「お」も同じように子どもに言わせる。
- (3) 繰り返してだんだん言わせていく。「あーいーうーえーお」の順番で、言えるようになったら、今度は、アトランダムに見せて言わせる。
- (4) 平仮名カードを机の上に置いてカルタをする。指導者が「あ」と言って、子どもが「あ」のカードを取れるか確かめる。カードを取れるようになるまで、繰り返す。
- (5) 次に、同じようにカードを机の上に置くが、今度は指導者が何も言わず、カードを指差し、そのカードの読みを子どもに言わせる。
- (6) 読めるようになったら、「ゆびなぞりカード」等を使い、指でなぞり、「あ ①イチ、②ニ、③サーン。」と声を出しながら書いていく。
- (7) 次に、鉛筆でなぞり書きをさせる。『ひろこさんのたのしいにほんご1 ひらがな・かたかな・かんじ・れんしゅうちょう』を使う。
- (8) なぞり書きができるようになったら、点線のないシートを使って、写し書きをさせる。
- (9) 家庭学習で、指導に使用したものと同じプリントをやらせる。
- (10) 家庭学習の答え合わせをする。「あ行の平仮名なぞり書きシート」を見ながら、一つずつ言わせる。指書きさせて、正しく書けていれば、○をつける。
- (11) **ディクテーション** 指導者が「あ」と言って、子どもに復唱させ、「あ」を正しく書ければ○をつける。同様に「い」から「お」まで行う。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるかどうかをみる。書けない場合は、子どもには正解の文字を見て書くようにさせる。

(12) 背中文字（手の平文字）

- ア 子どもの前に、「あ、い、う、え、お」のカードを置いておく。
 - イ 子どもの背中に、しっかりと「あ」と書く。
 - ウ 背中に書いた文字と同じカードを子どもに取らせる。「あ」と書いたときは、「あ」のカードを取らせる。
 - エ 何回か繰り返して練習する。
 - オ 次に、役割を交代する。指導者の前に、「あ、い、う、え、お」のカードを置く。
 - カ 子どもが指導者の背中に「う」と文字を書いたら、指導者が「う」のカードを取る。
- ※背中に文字を書くことに抵抗感のある子どもには、手の平に文字を書くことも考えられる。

<あ行～た行まで学習した場合>

あ行～た行までの復習を行う。

(13) 坊主めくり

- ア カードに、あ行からた行までの平仮名を書かせておく。(20枚になる。)指導者も同様に書く。
- イ 同じ形のカードに、笑顔(または姫)カードと泣き顔(または坊主)カードを適当数作り、あ行からた行までのカードに混ぜて裏にして置いておく。
- ウ 引いたカードを読むことができれば、自分のカードにすることができる。読めなければ、中央に置く。
- エ 指導者と子ども等で交代に引く。
- オ 泣き顔カード(坊主)を引いたら、自分がためたカードを中央に置く。
- カ 笑顔カード(姫)を引いたら、中央に置かれたカードを自分のカードにすることができる。
- キ 最後まで引いて、自分のカードが多い方が勝ち。

(14) 16マスビンゴゲーム—もう少し多くの平仮名を学習した後は25マスにしてもよい。

- ア 16マスのビンゴカードに、あ～とまでの20種類の平仮名から16種類の平仮名を自由に選び、子どもに書き込ませる。
- イ ビンゴカードとは別に、カードに「あ～と」を子どもに書かせておく。
- ウ 20枚のカードを切り、裏にして(伏せて)置いておく。
- エ 子どもにカードを引かせ、そのカードの平仮名を読ませる。
読むことができ、その文字がビンゴカードに入っていたら、○を付けることができる。
- オ 読むことができなかったら、指導者と一緒に声に出して読む。
- カ このとき、「ある/ない」の復習を行いながら、一緒にビンゴゲームをする。
例：(「た」のカードを引いた場合。)[「た」、ある?ない?]
- キ 指導者と子どもが交代でカードを引き、先にビンゴになった方が勝ち。

さ	せ	た	そ
す	け	と	う
つ	い	く	き
し	き	ち	お

<あ～んまで学習した場合>

(15) 平仮名並べ(トランプの7並べの要領で、平仮名を50音図のように並べていく)

- ア トランプの7並べのように、平仮名を並べるゲームを行う。「なにぬねの」を中心とし、「な」を持っている人から始める。「なにぬねの」を中心とし、「な」を持っている人から始める。(横に伸ばしていく。)
- イ 「わ^いい^ゆえ^よ」の^いと^えの所はジョーカー2枚を入れる。
- ウ 「ん」は入れない。「ら」の隣に「わ」を、「ろ」の隣に「を」を置くこととする。
- エ 「わ^いう^えを」の^いう^えの部分には空欄とする。
- オ 「3回パスしたら負け」などのルールは、子どもの実態に応じて適宜決める。

わ	ら	や	ま	は	な	た	さ	か	あ
×	り	JOKER	み	ひ	に	ち	し	き	い
×	る	ゆ	む	ふ	ぬ	つ	す	く	う
×	れ	JOKER	め	へ	ね	て	せ	け	え
を	ろ	よ	も	ほ	の	と	そ	こ	お

(16) 単語のディクテーション

指導者が(例)「かじ」と言ってから、子どもにも「かじ」と言わせて、正しく書ければ○。同様に、(例)「みず・かぜ・かぎ・ごはん・めがね」の単語を使ってディクテーション(聞き取り)をする。指導者は、子どもが間違えたときは、もう一回聞かせて書けるかどうかをみる。また、間違えている原因が、発音かにあることもあるため、正しく言えるかどうかを常に確かめるようにする。どうしても書けない場合は、正解の文字を見て書かせる。

(17) 間違えやすい平仮名

間違えやすい平仮名は、違いをはっきりさせ、繰り返し練習する。

- ①「あ、ゆ、ぬ」②「わ、れ、ぬ」③「あ、お」④「ら、ろ」⑤「る、ろ」⑥「ね、ぬ」⑦「す、む」⑧「た、に」⑨「は、ほ」⑩「さ、き」⑪「さ、ち」⑫「い、こ」⑬「し、つ」⑭「く、へ」⑮「の、ぬ」⑯「け、さ」⑰「お、よ」

(18) 自作資料を作成する場合は、教科書体(楷書体)で作成する。明朝体では、異なった文字と認識してしまうおそれがあるため、教科書体と同じ文字であることを指導する必要がある。

さ き (明朝体)

さ き (教科書体、楷書体)

※明朝体では線がつながりにまもってしまっているが、教科書体では線が切れている。

(19) 単語づくりゲーム

平仮名カードを机の上にかいたのようにしてランダムに並べる。指導者が言った単語を子どもにとらせて並べさせる。

※単語によっては同じ文字を2回以上使うこともあるので、このような単語を扱う場合には、あらかじめ複数枚同じ平仮名カードを入れておく。

※平仮名カードは、子どもと一緒に手作りしておくことも考えられる。

